

平成18年度第1回山梨県考古博物館協議会議事録

○ 開催日時

平成18年11月17日（金）午後1時～

○ 開催場所

風土記の丘研修センター研修室

○ 出席者

委員：齊藤洋子委員、椎名慎太郎委員、谷口一夫委員、花輪定徳委員、
福田一夫委員、古屋幸子委員、吉原五鈴子委員、神楽洋美委員、
北原行雄委員（15名中9名出席）

※富山克彦委員については、代理人が出席

事務局：館長、副館長、学芸課長、学芸課員、総務課員

○ 協議会の成立

山梨県附属機関の設置に関する条例第6条第2項の規定により、出席委員が定足数に達したため協議会は成立した。

○ 議事

(1) 平成18年度考古博物館経過事業について

(2) 平成18年度考古博物館予定事業について

(事務局) (1)、(2)について説明

(委員)

昨年度末に、県内の歴史系博物館と連携した「縄文王国スタンプラリー」を実施したが、どのような状況だったか。

(事務局)

北杜市埋蔵文化財センターや韮崎市民俗資料館など6館の協力をいただき開催した。賞品には手作りの土器や記念スタンプを用意して応募を募ったのだが、合計で20名ぐらいは県外の方の応募であり、遠方では仙台の方もおられた。なお、直接入館者数に結びついたかという点では、釈迦堂遺跡博物館では4月期で40%増とのことであった。当館も間違いなく影響していると思う。

(委員)

年間パスポートに関しては、これまで美術館のものを購入していたので、導入されたこと

はうれしい。お得感があり、パスポートがあれば暇なときには行ってみようと思う。なお、年間パスポートは美術館が3000円、県立博物館が2000円だったと思うが、3館共通のパスポートは検討できないか、3館では5000円位か。美術館には興味があるが、考古には興味がないという人もイベントなどをきっかけに来るようになるかもしれない。また、現在までの購入者数が5人では寂しいので、もっとPRしてはどうか。

(事務局)

当初学術文化財課では4館で利用できるパスポートを検討していたが、調整がつかなかったと思われる。とりあえず、「それぞれの館でのパスポート」になったと思われ、今後も導入を要望していきたい。

(委員)

各考古学講座はどのくらいの人数が参加できるか。また、応募の状況はどうか。

(事務局)

勾玉作りは最大50名までで、トンボ玉作りはバーナーを使用することから、一対一で行うのが理想的なので、1回の講座で受け入れられるのは5名程度である。なお、土器作りは20名程度で、親子土器作りの場合は15組を受け入れているが、応募については定員いっぱいの状況である。

(事務局)

考古博物館だよりも掲載してあるが、学校体験用のプログラムとして実施しており、1学年又は1クラスを想定した人数を受け入れられるようにしている。

(委員)

作成した土器はどのような方法で焼いているのか。

(事務局)

電気やガスなどではなく、丸太や廃材などを使い、その時代に用いられたと推測される「野焼き」という方法で焼いている。

(委員)

講座のPRの方法はどのようにしているか。また、学芸員実習はどのような人を受け入れているのか。

(事務局)

PRは県の広報媒体とともに、各報道機関へ記事の投げ込むことによって行っている。各講座ごとのチラシは昨年度までは作成していたが、今年度は3ヶ月単位でまとめたものを生涯学習センターやことぶき勸学院等に置かせてもらっている。また、HPでも広報している。なお、学芸員実習は人文系や歴史系を専攻している、本県出身または本県在学の大

学生を受け入れている。今年度は山梨県出身者を4名受け入れた。

(委員)

大学では学芸員課程の必修科目となっている。

(委員)

スタンプラリーに参加したが、滅多に行かないところに行けてよかった。3日間かけて全て回ったが、それぞれの館の展示姿勢がわかってよかった。今回とは別の館も取り込んで継続したらいいと思う。

(委員)

山梨は縄文王国。この辺では当たり前に見られる土器も関西に行くと全然違う。スタンプラリーはそれを知ってもらう良い機会なので、是非続けてほしい。

(委員)

HPのアクセス数どうか。

(事務局)

11月に入り延べ10万件を突破した。昨年の4月から始めて、今年の3月で5万件、その後、4月から11月で5万件ですので、昨年度を上回る勢いである。

(委員)

HPには各講座の情報提供のほか、申込などもできるのか。

(事務局)

HPには年間の予定を載せている。また、博物館だよりも年間スケジュールは載せてあり、今年度からは銀行の各支店にも置いてくれることになった。HPは県庁とキャンパスネットにリンクされており、申込も可能となっている。なお、昨日まで受け入れていた中学生の職場体験の様子も掲載しているので是非ご覧いただきたい。

(委員)

私も丘の上の状況は今まで知らなかったが、周りの自然がすばらしく、とてもいいところなので県外の方にも知ってほしい。桜などもアピールすれば、井戸尻考古館のように「蓮がきれいだから行きましょう」となるのでは。なお、年間の予定が決まっているなら、早めにまとめてチラシなどで情報を提供してほしい。

(事務局)

年間スケジュールは考古博物館だよりも載せているが、だよりは来館者を除き、行き渡らなかつたかもしれない。周辺のPRについては公園公社とも協力していきたい。

(委員)

紅葉など周辺の自然は、県内の博物館のなかでも考古博物館や風土記の丘公園が一番素晴らしい。これも大きな魅力になる。

(委員)

史跡文化財セミナーは、紅葉の季節の風土記の丘や、4月の桜の季節が散策できてとてもいい企画。素晴らしい自然を知ってほしい。

(委員)

少ない予算で多くの催しものを行っているが、その情報がなかなか伝わりにくいように思う。目に付く場所に置くこととキャッチフレーズが大事だと思う。井戸尻考古館の「古代ハス」のように、県民のみなさんに情報が行くようにメディアなども使って、広く情報が行き渡るよう研究してほしい。

(委員)

本年の3月に甲府市と合併になったが、変わったことはあるか。

(事務局)

甲府市の団体にイベントとして使われる機会が少し増えたようだ。また、今度合併となった中道・上九地区において、新たにイベントを開催していきたいというような考えもあるように聞いている。

(委員)

HPが今年5万件のアクセスがあったとの話があったが、頻繁に更新してあればアクセスは増加するので、四季折々の写真なども載せていくとよいと思う。なお、高校生の参加する企画が少ないように思う。参加できる一つの方法として、来週本校に県立博物館の学芸員が来て授業を行うが、これなどを参考にしてほしい。

(委員)

最初に歴史を学ぶのは小学6年生の4月。1日かけて出かけることは難しいので、出前講座をしてもらえるとありがたい。衣装や土器など見せてもらおうと興味がわき、次は家族で行きたいなというようになり、裾野の拡大につながる。

(事務局)

考古博物館は発掘の現場を担当している埋蔵文化財センターと表裏一体であるが、このセンターが実物の土器を持って出前講座を実施している。また、土器をジュラルミンケースに入れて貸出も行っているが、そのためには3日間ほど先生方に取扱いの講習を受けていただいている。

(委員)

年に1度巡回展というものを開催しているが、その際には身近に見ることが可能なので、

考古でも近隣の学校に周知を行ったらいいのでは。なお、県立博物館ではみんなで作る博物館ということでいろいろな委員会があるが、委員の方には入館に際して誰にでもわかるよう委員証を交付している。考古博物館ではそのような予定はないか。

(事務局)

そのような仕組みが導入できるよう、前向きに検討していきたい。

(委員)

県立博物館は路線バスが通っているが、考古博物館にはない。公共交通機関を利用するしかない方は躊躇するので、市やバス会社に陳情するなど何度でも言い続けてほしいし、新宿行きの高速バスで、甲府・中道間でも降りられるようにするなど、考えられないか。

(事務局)

合併もあったことなので甲府市と話していきたい。かつてシカン展を開催したときは山交バスの臨時便が出たことがあるが、民間であり、採算性もあることなので。途中下車についても山交に相談してみたい。

(委員)

甲府市の観光案内所に置いてある資料の中で、博物館の欄に考古博物館の記載がないのはいかがか。

(事務局)

甲府市に要望していきたい。

(委員)

協力会の会長もしているが、協力会の人数が少なくなってきているので、会員の募集を行うなど、ぜひPRしてほしい。

(事務局)

現在、会員数は53名で、例年1月から3月にかけて募集をしている。